



あい紙

あいし (あいがみ)

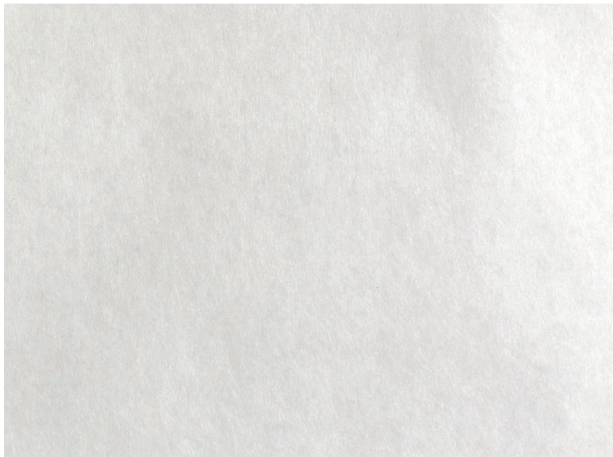


写真1. あい紙 (ロール紙の拡大写真)

概要

あい紙 (合紙・間紙) は、版画や水彩画などの紙作品を保管する際に、作品と作品の間に挟み込んで使う、保護用の薄い紙のことです。

紙は酸化やカビが発生すると、黄ばみや劣化の原因となります。また、作品表面のインクや色材などが外部からの紫外線や物理的な影響によりダメージを受けます。これらのダメージから作品を守るために、保管時はあい紙を作品の表面に重ねたり、作品と作品の間に挟むなどの処置を行います。

一般的には中性の薄葉紙(うすようし)、またはロール紙、グラシン(パラフィン紙)が用いられることが多いのですが、長期保存の場合には専用のSILティッシュ、ピュアガード(特殊製紙株式会社)などの保護紙を用いる方が良いでしょう。

あい紙は若干の光沢がありツルツルした面が表側です。作品を保存する際は、ザラついた裏側を画面に向け、一点ずつあい紙を置き、作品を重ねます。高温多湿な場所を避け、通気性の良いところで保存することが大切です。あい紙は画材店などで手に入れることが可能です。

※写真中の紙色は、実際とは異なる場合があります。

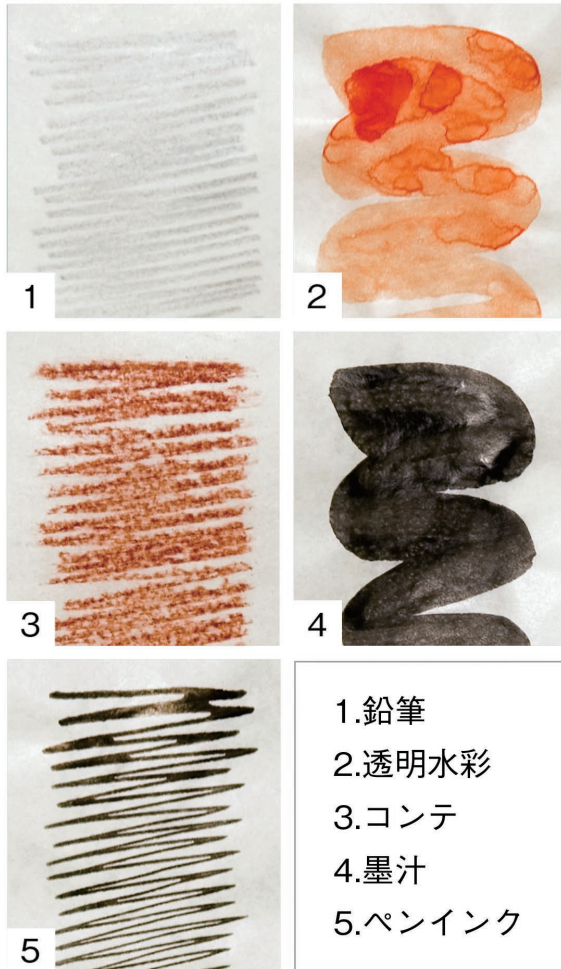


写真2. あい紙（ロール紙）における描画例（拡大写真）

※描画例（写真）は、用紙の特性や表現の可能性を示すためのテストサンプルであり、特定の描画材の使用を薦めているものではありません。（一般的には適していないとされる描画材もあえて使用しています。）

使用例 作品の保管・保護



あい紙を作品の表面に重ねたり、作品と作品の間に挟むことで保護します。